

5 RINK 釧路まちづくりラボの展開 (案)

市が考える公民連携について説明します。

5-2 釧路都心部まちづくり計画 (基本構想編)での公民連携

市では平成 31 年 3 月末に、釧路都心部まちづくり計画 (基本構想編) を策定しました。

この計画は、釧路市の「顔」として、また、ひがし北海道の玄関口として、**市民、民間事業者、行政**が目指す都心部の将来の姿を共有し、**連携して都心部の活性化に取り組むための指針**となるものです。この計画の中で、将来像の実現に向け、まちづくりの方針と施策の方向性をまとめていますが、**その中で特に公民が連携する取組みについて、下表に整理**しました。

今後のラボの意見交換の中では、この内容を中心に民間プレイヤーの皆さんと議論していきたいと考えています。

基本構想編による公民連携の取組み一覧表

基本構想編における 施策の方向性	想定される取組内容 (注)	想定されるキーワード (注)
①商業機能等の事業活性化 に向けた取組み	専門店、飲食店の創業支援、経営支援	釧路らしさ 若者、女性、シニア世代の活躍の場
②商業・業務機能の利便性 向上を図る環境づくり	専門店、飲食店の創業支援、経営支援、 イベントの開催、イメージアップ、 競争力強化、賑わいの創出	釧路らしさ 若者、女性、シニア世代の活躍の場、 空き地・空き建物等の遊休不動産の 再生
③既存ストック活用、 公共施設の複合化、 店舗の共同化等による 都市機能の更新	イベントの開催、イメージアップ、 競争力強化、賑わいの創出	空き地・空き建物等の遊休不動産の 再生
④公共空間等を活用した おもてなしと交流の場 づくり	広域的都市機能の誘導	公共施設等の集約化・複合化 コンパクトなまちづくりの推進
⑤食を楽しむ魅力的な空間 づくりと市民、観光客が 集まる賑わいの場づくり	地元食材を活用した食の提供 食と風景を楽しめる空間づくり 食の魅力向上とブランド化推進 食の観光地としてのイメージ向上	釧路ならではの 「何度訪れても、いつ訪れても 美味しい釧路」
⑥住宅ストックを活用した 長期滞在者等の受け入れ 物件の確保	長期滞在事業を推進 二地域居住や移住の促進	気候特性の活用 (冷涼、小雪、花粉ゼロ)
⑦賑わいを創出する歩行空間 の利活用促進と公共交通の 再編	観光案内等の利便性やサービス向上 観光ブランド力の向上 憩い・滞在の空間・環境づくり	地産飲食 (フードコートなど)

(注) 想定される【取組み内容】や【キーワード】については、まちづくりラボとしての取組みを念頭に置いたものであり、公共交通や社会基盤に関連するものには触れていない。

RINK 釧路まちづくりラボ
都心部の衰退から都心部の活性化を考える (2019. 12)事務局 釧路市総合政策部 都心部まちづくり推進室
〒085-8505 釧路市黒金町7丁目5番地
TEL : (0154) 23-5151 FAX : (0154) 25-8149
E mail : to-toshinbu@city.kushiro.lg.jp

未定稿

リ ン ク

RINK 釧路まちづくりラボ

Re:Innovation to Next generation , central Kushiro

～次世代に向けた釧路都心部のリ・イノベーション～

都心部の衰退の原因から都心部の活性化を考える

RINK 釧路まちづくりラボは、都心部の活性化に向け実際に活動されている民間プレイヤーの皆さんにお集まり頂き、まちづくりの担い手の巻き込みや発掘を行うこと、また活性化に向けたテーマ出しやアイデアを頂くことを目的に設置しました。

令和元年5月に開催した第1回目のラボでは、**(都心部の衰退の原因を把握し、その上で、既存の「もの」の掘り起こし、新しい「もの」の発掘を行うべきである)**というご意見を頂きました。また、若い人たちには、「まち」と呼ばれた頃の都心部の賑わう姿を知る人は少ないと思います。そこで事務局では、かつて多くの人で賑わった都心部の状況を振り返りながら、「なぜ都心部は衰退したのか」その背景を**人口の増減やまちづくりの視点から探る**と共に「そこから導き出せるキーワード」「**都心部を活性化させる必然性**」「**都心部の活性化に向けたフロー (案)**」「**RINK 釧路まちづくりラボの展開 (案)**」などについて整理しました。

1 都心部の成り立ちと都市の郊外部への拡大 (戦後の高度成長期から昭和末期のイメージ)



○自動車社会の到来による近隣自治体からの交流人口増加。

○都心部はひがし北海道を代表する賑わいの拠点に発展。

○釧路 (都心部) は釧路川河口部に発展。都心部は人々の暮らしを支えている状態。

○人々の居住や往来が商機となり、暮らしに関する商業はもとより、娯楽、趣味に関する商業が発達。

○堅調な景気と基幹産業、相次ぐ百貨店の開業。

○定住人口の爆発的な増加により、郊外に都市を拡大する都市計画の策定。

【都市の物理的な問題解消】

釧路市の人口
僅か20年間で

昭和 20 年 およそ 8万人

昭和 40 年 およそ 20万人

2.5倍増加

※郊外部にニュータウン等が造成

市民

【人間の本能的欲求】

○郊外の戸建ての暮らしにより、ゆとりある生活を楽しむ。
○暮らしに必要な機能を遠くより近くに求める。

変化

【人間の合理的な行動】

○利便性の向上のため、ニュータウン内にスーパーなどが進出。(商機が移転)

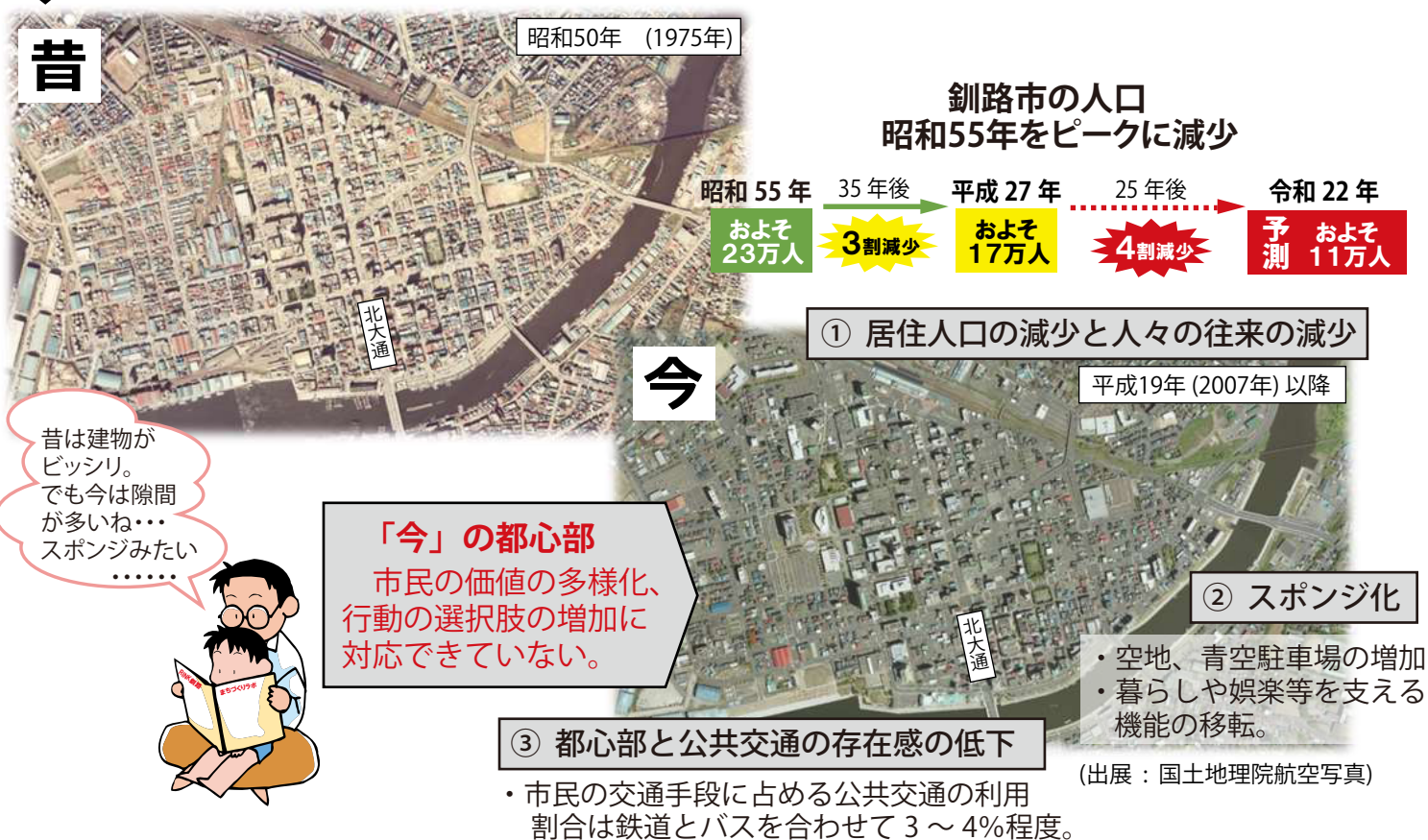
結果

○暮らしや趣味・娯楽を支える機能が、都心部から郊外に移転する契機。
○郊外のスーパーのショッピングモール化。

2 都心部の衰退（平成のイメージ）

↓ 航空写真の変遷から見る都心部の状況

事務局では都心部の「昔」と「今」の状況を誰が見てもわかるように航空写真で比較しました。



3 都心部の活性化の必然性

ここでは、どうして都心部を活性化させる必要があるのか、整理しました。

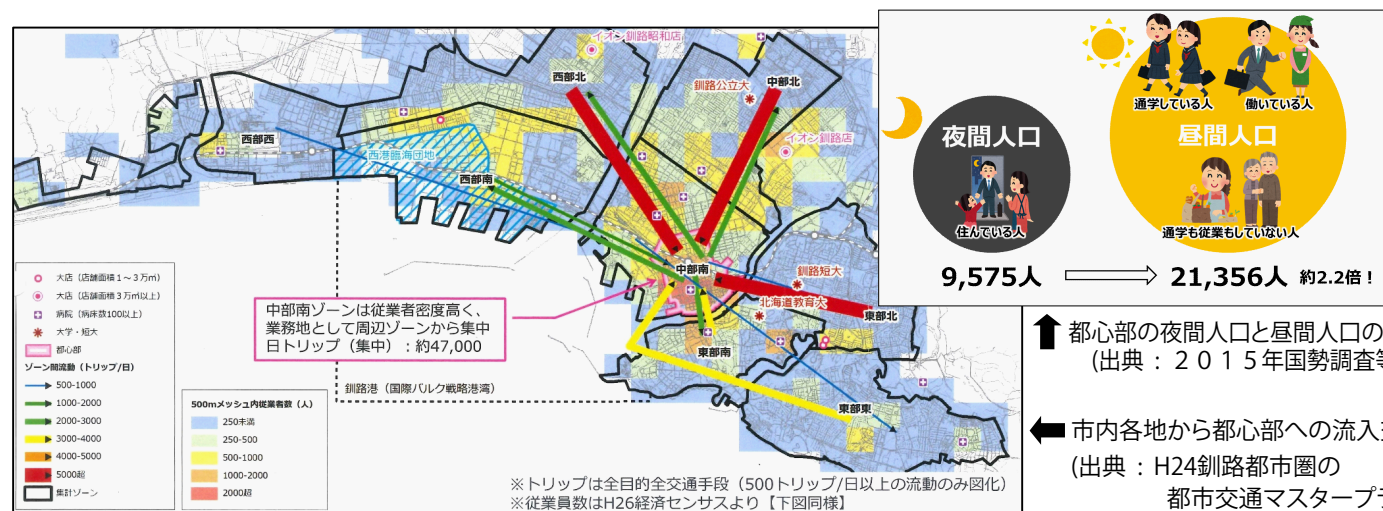
3-1 なぜ、都心部に賑わいを取り戻すのか？

都心部よりも郊外で賑わいを創出した方が効率的ではないのか？

都心部は釧路の「かお」

定性的 市民の郷愁・土着の場所 来訪者が訪れる場所

定量的 公益公共機関が集積 各地から人が来訪（昼間人口は夜間と比較して約2倍）

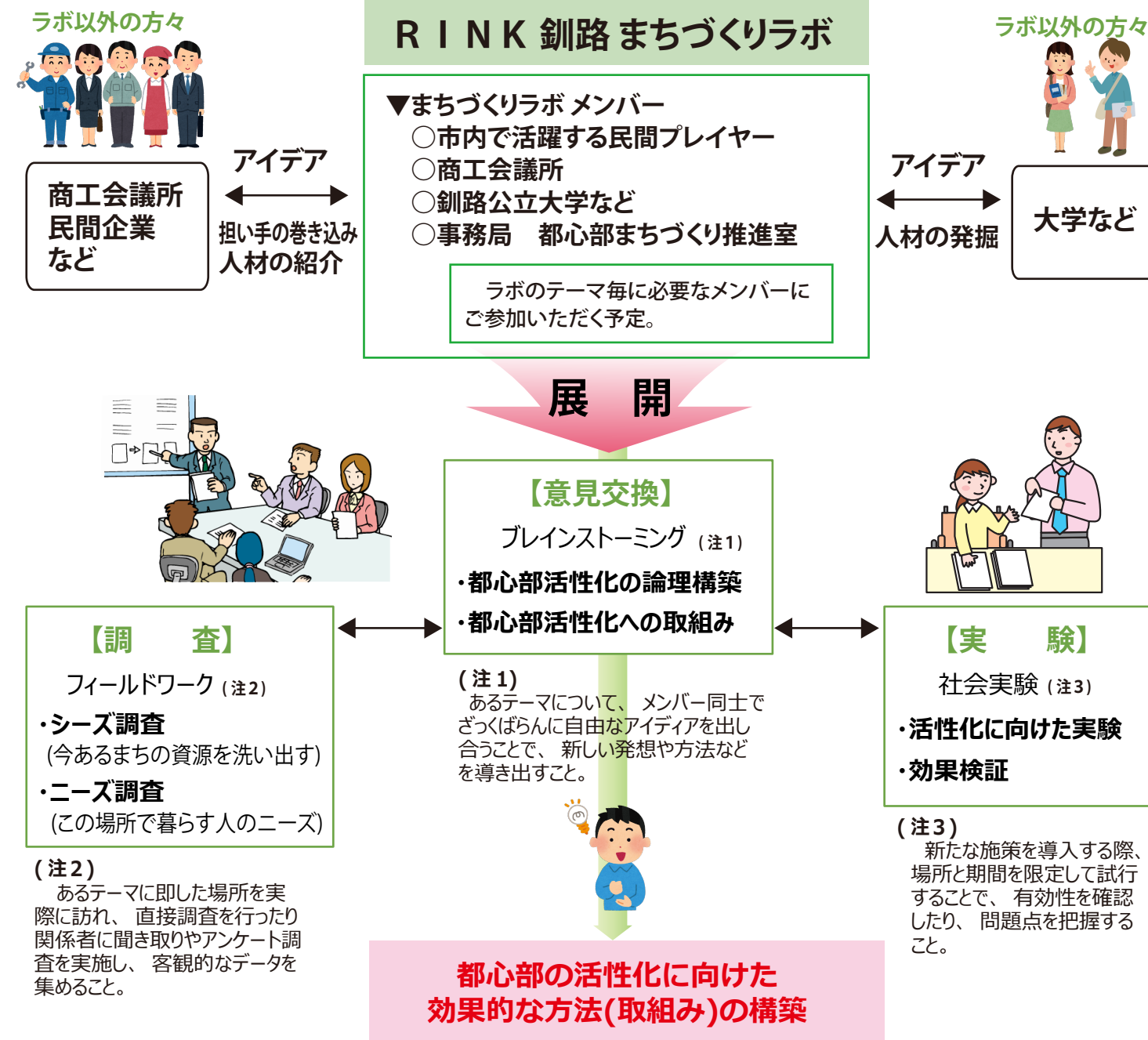


5 RINK 釧路まちづくりラボの展開（案）

ここではラボの展開について説明します。

5-1 ラボの組織と展開

RINK 釧路まちづくりラボには、実際に市内で活躍されている民間プレイヤーの皆さんを中心に参加頂いておりますが、市ではもっと広く市民の皆さんに議論を広めるため、民間プレイヤーの皆さんに対し、個人的につながりのある方々にも身近な場所で議論を行いその結果をラボにフィードバックしていただくよう、協力をお願いしています。



民間プレイヤーの皆さんと、意見交換・調査・実験を繰り返しながら、都心部の活性化に向けた検討を進めていきます。

